

情報通信部会長報告

1. 会議名 第2回情報通信部会（ITツール活用セミナー）

2. 日時 2021年7月20日（火）13：30～15：00

3. 場所 ホテルメトロポリタン秋田

4. 後援 (一財)秋田RPA協会
(公財)日本電信電話ユーザ協会秋田支部

5. 出席者 45名（うち、オンライン参加11名）

6. 講演

「DX、はじめの一歩を現場から」
～ノーコードで作成できるモバイルアプリ活用のすすめ～
アステリア(株) エバンジェリスト 松浦 真弓 氏

7. 事例紹介

「我社のDXへの取組」～あくなき生産性の向上を目指して～
(株)和賀組 代表取締役 和賀 幸雄 氏



【DXの本質】

- ・ DXの本質はITシステムと組織文化の融合であり、DXの実現のためには「素早く変革し続ける能力」を身に付けることが重要である。トップダウンでは時間がかかるため、現場で仮説検証の試行錯誤をスピーディーに行うことが有効である。

プラティオ

【アステリア(株)製品、「Platio」の紹介】

- ・ 業務担当者が自社業務にフィットするモバイルアプリを、専門スキルがなくてもノーコードで作成・活用できるクラウドサービスであり、現場からでもDX化を進めることができる。
- ・ 秋田県内では仙北市でこの製品を活用し、「角館の桜まつり」の、桜の開花情報や会場の混雑状況などを仙北市職員が共有するためのアプリを製作。会場内の感染防止対策や観光客の誘導対応にも活かされた。

【生産性向上に向けた自社の取組事例】

1. 施工進捗状況のデータ化

作業班が本社へ施工データを送ることで、本社担当者が**作業班の帰りを待たずに施工報告書の作成が可能**となった。

2. 人員配置のWeb管理化

どの現場にどの作業員が従事しているかをWebで管理することで、**作業員の負荷状況の把握が可能となり、適正配置による効率化**を図ることができている。

3. 請求管理業務のシステム化

現在のワークフローは、「①仕入先業者が和賀組へ請求書を郵送②現場担当者が内容を確認③経理担当者が支払処理」の順だが、今後は、関係者全員が同じシステムにログインすることを可能とし、**システム内で請求書発行から送金までのすべての請求管理業務を終えられること**を目指している。